

授業科目名	アーツ&ルーツ導入演習 実 Introduction to Arts & Roots	担当教員名	皆川嘉博、村山修二郎、藤浩志、 石倉敏明、服部浩之、唐澤太輔
時間割	火、水曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーアーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	8単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「現代芸術論 1、2」「現代芸術演習」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード ルーツ、フィールドワーク、グループワーク			
授業の到達目標及びテーマ 本授業はアーツ&ルーツ専攻専門科目の導入科目である。フィールドワークや文献調査など行い新たな知見を得ることに重点をおく。またフィールドワークや作品制作をグループで行うことで自分自身や他者の特性を知ることにも授業のテーマの一つである。グループワークを行うことで個人の能力を超えた成果物を作ることが最終の目標となる。			
授業の概要 学生を数人のグループに分け授業を進める。グループによるフィールドワークや文献調査などを行い、得られた新たな知見を元に課題を設定しグループによる作品制作を行う。 フィールドワークなどの調査で得られた成果に対してのレポート作成やそのプレゼンテーションも行なってもらふ。最終的には調査を元にした作品をグループごとに制作し発表を行う。 本授業は、「アーツ&ルーツ基礎演習」、「アートプロジェクト演習」、「アーツ&ルーツ応用演習」、へと段階的に進んでいく。 なお、本授業の運営にあたって、指導陣はアートプロジェクト、展覧会企画、キュレーション、作品制作、研究調査、協働活動等の実務経験を活かして指導に当たる。プロジェクトの内容に応じて専門性の高い外部講師を招聘する。			
授業計画 第 1 回 授業の概要や日程についてのガイダンスとグループ分け 第 2-7 回 個人ごとに行うフィールドワークの方向性の考察 第 8-12 回 フィールドワーク先の決定、および、その調査内容や方法について 第 13-33 回 学外でのフィールドワークや文献調査など。 第 34-38 回 フィールドワークや調査についてのレポートを作成 第 39-40 回 個人による、レポートプレゼンテーション（外部講師との共同） 第 41-43 回 グループごとに行なうフィールドワークの方向性の考察。 レポートを活かした作品のアイデアスケッチ 第 44-53 回 マケット、下図等制作 第 54-55 回 使用する素材や技法に分かれ、道具や設備についてガイダンスを実施する。 第 56-59 回 材料の準備、道具づくり 第 60-75 回 本制作開始 第 76-118 回 本制作 第 119-120 回 グループごとの完成作品展示、プレゼンテーション 講評（外部講師との共同） * 作品制作には材料費が必要です。 * フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。 フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
授業時間外の学習内容等 授業時間外を利用して、積極的にフィールドワークに取り組み、リサーチすることにより授業内容を深める。			
評価方法 プレゼンテーションや講評と授業への取り組み、完成作品を総合的に評価します。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			

授業科目名	アーツ&ルーツ基礎演習 実 Arts & Roots Seminar	担当教員名	皆川嘉博、村山修二郎、藤浩志、 石倉敏明、服部浩之、唐澤太輔
時間割	火曜日 3、4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーアーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	6 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「アーツ&ルーツ導入科目」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード ルーツ、フィールドワーク、グループワーク			
授業の到達目標及びテーマ <p>「アーツ&ルーツ導入演習」ではグループごとにフィールドワークや課題を行ったがこの授業はそのプロセスを個人で行う。各自の興味のある主題や媒体に応じたプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクトの中で調査・研究・作品制作・発表を行う方法を学んでいく。計画段階、途中経過、最終発表時のプレゼンテーションの方法を学んでいくことも目標となる。</p>			
授業の概要 <p>各自、フィールドワークや文献調査やなどで得られた知見や自身の興味を元に課題を設定する。その課題に対してプロジェクトを立ち上げる。そのプロジェクトの一環として調査・研究と作品の制作と発表を行う。調査するテーマは「(文化的・歴史的) ルーツ」に関するものを主とする。ルーツとは地域のものでも個人のものでも構わない。例えば、縄文時代の遺跡、民話や説話、来訪神儀礼や修験芸能、里山・里海の生活文化から現代の社会・政治的課題などまで幅広く対象とする。</p> <p>なお、本授業の運営にあたって、指導陣はアートプロジェクト、展覧会企画、キュレーション、作品制作、研究調査、協働活動等の実務経験を活かして指導に当たる。プロジェクトの内容に応じて専門性の高い外部講師を招聘する。</p>			
授業計画 第 1 回 授業の概要や日程について (ガイダンス) 第 2-5 回 調査・研究対象となる分野の考察 第 6-10 回 調査・研究対象の決定 第 11-20 回 調査内容や方法についてのプレゼンテーション 第 21-24 回 調査・研究対象へのフィールドワークや文献調査 (外部講師との共同) 第 25-27 回 調査・研究結果のプレゼンテーション 第 28-32 回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映したさらなる調査・研究 第 33-35 回 プロジェクト内容についての資料作成 第 36-44 回 プレゼンテーション (外部講師との共同) 第 45-84 回 作品の作成 第 85-87 回 作品の展示 第 88-90 回 プレゼンテーション 講評 (外部講師との共同) * フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。 * 作品制作には材料費が必要です。 フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
授業時間外の学習内容等 授業時間外を利用して、積極的にフィールドワークに取り組み、リサーチすることにより授業内容を深める。			
評価方法 授業への取り組み方、研究成果をみて総合的に判断します。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			

授業科目名	アートプロジェクト演習 Art Project	担当教員名	皆川嘉博、村山修二郎 藤浩志、石倉敏明、服部浩之
時間割	(前)木曜日 4 時限 (後)水曜日 4 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次通年	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「現代芸術論」「アーツ&ルーツ導入科目」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード ルーツ、フルドワーク、グループワーク			
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、社会で行われているアートプロジェクトの目的や成り立ちやアーティストの関わり方などについて調査をして理解を深める。実際にプロジェクト開催に必要な知識を学び、企画、立案について考える。			
授業の概要 全国各地で行われている様々なアートプロジェクトに参加をしてその実情を学ぶ。参加方法については積極的に関われる形であれば特に形式は問わない。アーティストとしての参加、運営としての参加、ボランティアとしての参加など様々な形が考えられる。 プロジェクトに参加することでアートやアーティストが社会で如何なる役割を持っているかを考察する。参加したプロジェクトについて運営主体、事業規模、開催日数、告知や来場の対象者、集客人数などの具体的な数字を含むレポートを作成しプレゼンテーションを行ってもらう。他の学生が参加したプロジェクトの実情を知ることによって実際に行われているプロジェクトの多様性も学ぶ。本演習で、アートの現場を経験し、動向を把握した上で、4 年次に行う「アーツ&ルーツ応用演習」にむかう。			
授業計画 第 1 回 授業の概要や日程について (ガイダンス)。 第 2 回 参加するプロジェクトの考察 第 3 回 参加するプロジェクトの決定 第 4-12 回 プロジェクトへの参加 (前期に一度、プレゼンテーションを行なう。) 第 13-14 回 参加したプロジェクトのレポート作成 第 15 回 研究成果プレゼンテーション *参加するアートプロジェクトはその年度ごとに適切なものを判断します。 *材料費や交通費等が必要になる場合があります。 *実際に行われるアートプロジェクトの日程に合わせるため授業計画を変更する場合があります。			
授業時間外の学習内容等 授業時間外を利用して、積極的にフィールドワークに取り組み、リサーチすることにより授業内容を深める。			
評価方法 授業への取り組み方、研究成果をみて総合的に判断します。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			

授業科目名	アーツ&ルーツ応用演習 実 Project Planning and Presentation	担当教員名	皆川嘉博、村山修二郎、藤浩志、石倉敏明、服部浩之、唐澤太輔
時間割	火、水曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門専攻科目ーアーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4 年次前期	単位数	8 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「アーツ&ルーツ導入演習」「アーツ&ルーツ基礎演習」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード ルーツ、フィールドワーク、プロジェクト			
授業の到達目標及びテーマ 3 年次までの授業で積み重ねてきた各自の研究対象などをプロジェクトとして展開する。そのプロジェクト内で調査・研究・作品制作・発表を行う。またプロジェクトの計画書の作成も重要な学びの要素となる。			
授業の概要 各自が立ち上げたプロジェクトの計画書を作成し、そのプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション時に得られたアドバイスを元に計画書を修正しプロジェクトを展開していく。プロジェクトとして自身の興味関心のある分野に対しての調査・研究を行い、それを元に作品制作を行う。最終的には作品の完成の後に展示発表までを行う。 なお、本授業の運営にあたって、指導陣はアートプロジェクト、展覧会企画、キュレーション、作品制作、研究調査、協働活動等の実務経験を活かして指導に当たる。プロジェクトの内容に応じて専門性の高い外部講師を招聘する。			
授業計画 第 1 回 授業の概要や日程について (ガイダンス) 第 2-8 回 各自の研究対象の考察 第 9-10 回 研究対象を元にしたプロジェクトの立案と計画書の作成 第 11-15 回 プロジェクト計画のプレゼンテーション 第 16-22 回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映したさらなる調査・研究 第 23-26 回 計画書の修正 第 27-30 回 修正された計画書のプレゼンテーション (外部講師との共同) 第 31-52 回 プロジェクトのための制作物のマケット制作、下図等制作 第 53-60 回 作品制作のための材料の準備、道具づくり等 (前半 2 課題をプレゼンする。) 第 61-105 回 作品制作 第 106-107 回 作品の展示 第 108-117 回 作品のプレゼンテーション (外部講師との共同) 第 118-120 回 ディスカッション (現代の美術における自作の位置付けを探る) * 作品制作には材料費が必要です。 * フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。 フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
授業時間外の学習内容等 授業時間外を利用して、積極的にフィールドワークに取り組み、リサーチすることにより授業内容を深める。			
評価方法 授業への取り組み方、研究成果をみて総合的に判断します。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			